No. 65

1957年4月1日

主な記事

信念に生きよ……1頁
蚕糸業の難生策〔その2〕…3頁
山崎寿氏農学博士に……4頁
蚕糸繊維化学最近の研究…5頁
伊豆めぐり，他……8頁
会員の近況……10頁
訃報－久保氏逝く－……11頁

千曲會報

昭和32年4月1日発行
長野県上田市常入
信州大学繊維学部内
編集兼発行人 小山長雄
信州大学繊維学部内
発行所 社団法人千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可　毎月1日発行　定価1部15円

信念に生きよ

針塚長太郎先生遺稿

私が片倉本社在職中，同社の機関紙「糸の友」の第2代編集主任として，13年間業務の傍，編集に当り，多方面の方々の寄稿を乞い，曲り成りにも其の責を果しました。2月号千曲会報拙稿「蚕糸黄金時代の思い出」の中にチヨツト針塚初代校長のストライキの事にふれましたが，私は卒業後その罪ほろぼしの意味も兼ね，壮年期に同先生の4女百合子さんを，姻戚の橋本富寿工学士に，お仲人したようなことがあり，公私共頗る関係深く，先生の遺稿「信念に生きよ」も私の無理な願いを聞き届けて下さいまして毛筆で書かれた貴重なものです。1度「糸の友」にのせたのですが，同窓の皆さんにも読んで頂き，針塚先生を偲ぶよすがとなれば幸いと思います。

（蚕7）久保田昌人

人間の意義ある生存とは，どんなものかと云ふに，信念に活きると云ふことであると思ふ。信念に活きて自己の天分を全うし，自己の職業に渾身を打ちこんで精励努力することであろふと思ふ。人の為に使はるるとか，又は報酬を目的として働くとか云ふ考へのある内は，真の幸福の生活は得らるるものではない。之が自己の天職であると確認し，天に奉仕し神に事へるてふ観念を以て一心不乱に活動する時は，何等の不平も起らず，心情常に坦蕩々乎として愉快に安心して世を送ることの出来るものである。仕事に愉快を感ずるときは，茲に其の仕事に対する道楽化を見るのである。道楽は人に頼まれたからするの，何程の報酬があるからやるのと云ふ問題ではない。心から自分でやらずにはおられぬのである。碁打ちが寸暇をぬすみても，立ちながらでも，一面打つといふ工合になるのと同じ心理状態になるのである。我々が皆こふ云ふ気持になつて働けば，如何なる事業でも発達せぬはない。国産の興隆の如きは期して俟つべきである。楽んで仕事をすれば疲労は感ぜぬので，仮令つかれても之を苦痛とは感じない。例えば吾々が山に登ると同じ様で，汗を拭き拭き一歩一歩益々愉快を感ずるは，自己の道楽なるが故である。然るに同じ登りながらも，案内者たる人夫は，報酬が目的で登るのだから，只苦痛を感ずるのみにて，寧ろ途中から引返えして呉れればよいと云ふ様な気持ちを起すに相違ない。であるから吾々は自己の仕事を天職として，確き信念を以て寧ろ之を道楽化して，愉快に活動し能率を増進して，独り自己の為めのみならず，社会の為めに貢献したいものである。

人の偉大性を発揮し，驚くべき超人的の大能力を顕わすは，全く鞏固なる信念の賜物である。信念なき人の行動は如何に精励しても知れたものである。されば人間は信念に活きたいものである。之には常に自己の向上的の修養が大切である。現実的に，享楽的に，単に其日其日を少しでも楽をしながら過ごしたいという人には，到底望まれないし，又かくの如き人には享楽を求めて結局真の楽を得ずして，不満不足に不平を抱きながら，夢の如くに人生を終るの外はない。私の知人の家にあつたことだが，彼の東京の大震災の時，其の店は洋服の着地を沢山仕入れて置いたところに，かの大火災で一括三十貫目もある羅紗地のことだから，如何ともする事が出来なかつたところに一人の壮漢現われた。無論何処の誰だか知れない。其男が店の人に愚図々々しておると皆焼けてしまふから，早く日比谷公園に運びなさい。私が持つて行つ

て上げよふといふたけれども，知らぬ人の事だから，躊躇しておると，其の男は私が場所を見て来てやると云ふて出て去り忽ち帰りて，丁度よき処があるから運んで上げよふと言ふ故に，不安の念にかられながら，ドウセ焼けるものと思ふて，言ふが儘に托した。男は一括を横にかゝえ，一括を肩に担ぎて，小走りに往復すること三回都合六箇の羅紗服地を運んでくれて，最後に今日は之で三度目だから止めだと云ふて，飄然去らんとする故に，是非御名前を承りたいと云ふたら「俺は目黒の金蔵といふものだ」と一言を遺して去つた。後に直ぐに公園の其男のいつた処に行つて見たら，チヤント六箇の服地があつた。

店の者の喜びは一通りでい。此の荷物の一箇の目方は実に三十貫目で，二箇は六十貫である。この六十貫のものをかゝえて三回も往復するは到底人間の業ではない。全く超人的の神の仕業である。店は此の未知の義人の為めに，災後直にバラツクで開業することが出来た。この店として助かつたものは，只この六個の荷物のみだつた。余りの有難たさに間もなく人を派して，目黒方面を限なくさがしたが更に手懸りがない。村役場につき或は顔役を尋ねて調べたけれども如何してもわからない。大井大森辺迄も尋ねて見たが不明。漸く一人同名の者があつたから訪うて見たらヨボヨボの八百屋の親爺で話にならない，結局匿名の義人的行為だつた。而して今以て解らないのである。何と崇高なる人ではありませぬか。

恐らく此人は此店の成り立つたのを見て独り大に喜んでおることでせう。必ずや此人は信念に活きる楽しみをもつ高潔なる人格者であるでせう。実に信念の旺盛なる時は，体力にも精神力にも驚くべき偉力を発揮するもので，其例はいくらでも沢山あります。

御承知の伊太利国の現総理大臣にして六大臣を兼ねておるムツソリニー氏は過般欧洲の戦争の時に大砲の弾丸が破裂して，右腹に其の破片二十有余を受け，血に染みて卒倒したのを，軍医が手術して破片を取り出したるも猶数個丈は，内臓深く入りて抜くべからず，強て取り去るには生命に危険なき能わず又取り去り得たりとするも，到底助かる命でないと見込みて，其傷傷を縫い手当をなしたるに，果せるかな大熱四十度三分という重態を示めし，今日死ぬか明日死ぬかと思われしに，本人は却つて気性確かにして曰く「余は伊太利を救わざるべからざる故に断じて死なぬ」とてトウトウ大熱九十二日間続きて全く平癒された。かくの如き不思議の現象は，今日の医術では理解出来ぬことだといわれた。之れ全く精神力が肉体を支配したる得難き好例にして，此の精神力は氏が自分は伊太利を救うべき大使命てふ固き大信念を有せるより外ならざるはなし。実に驚くべく尊ぶべきは信念の威力ではありませぬか。而してムツソリニーにつきなお驚くべきはかの大熱の病中に自己の主宰する新聞の論説を書くことは欠かした事なく，尚この間にロシア語と英語とを学んで「学問をするには病気中に限る。雑事に妨げられないから」と言われたと云うに至りては只々驚嘆するの外ないではありませんか。かかる現象は到底西洋の物質文明に胚胎せる学問にては解釈の出来ぬ事である。一モニモ西洋カブレに心酔し，常に西洋人の後塵を拝して，西洋人のヒツタ屁まで特別の香りがするてふ吹けば飛ぶやうな輩には何と感じますか。物質文明を超脱して精神的に活くべき信念生活に入るは東洋独得の修養法と大哲学とがあるのです。之は儒教と仏教とに潜んでおるのでありましよう。かくの如き大信念の下に活動する時は一人の力よく千人万人の力に対することが出来ませう。かくの如き信念の生活を辿るものは小にして自己を安心立命の境におき得，人格者として衆人に尊敬され，大にしては汎く社会，人類を救うことが出来るでせう。一家，一工場を興隆し愉快なる安楽境とする位の事は，たいして困難のことではないと思います。

我々は共に一歩一歩づつでもこの信念生活を辿りたいものです。之れ今日の如く単に物慾にのみ拘泥し，物質的生活以外何等考えざる時は社会悉く利を之れ征して争利の修羅道に堕し骨肉相はむの惨状を呈して人道は玆に滅亡する外なからむと思ひます。官吏も企業家も教育家も職人も工業家も農業家も傭ふ人も傭われる人も皆共に我利を避け人道に拠り天に奉仕する積りにて円ろき温き気高き信念生活裏に活動したいと思ひます。

5月24日夜半稿

針塚長太郎

蚕糸業の甦生策　【その2】

日本蚕糸絹業協会の創立と日本シルクセンターの設置について（提唱）

蚕糸業委員会幹事長　唐　沢　正　平

日本蚕糸絹業協会創立目論見書（案）

1. 目　的

本協会は関係官庁機関と協力し官民の総力を結集して，日本の蚕糸絹業の改善発展の推進を図ることを以て目的とする。

2. 事　業

本協会は其の目的を達する為め下の事業を行う。

1. 日本シルク・センターの設置
2. 海外に於ける絹及生糸の需給調査，販路拡張及宣伝に関すること。
3. 内地に於ける蚕糸絹業の計画生産並調制に関すること
4. 蚕糸絹業の改良発達及研究調査に関すること。

3. 豫　算

1. 日本シルク・センター設置費　12億円

土地　1億5千万円　敷地　1,500坪　@坪10万円

建築費　10億5千万円　延7,000坪　@15万円（設備費を含む）（地上 8階　地下 2階　鉄筋コンクリート）

施　設

1. 蚕糸絹業関係博物館，展示室，図書館
2. 各関係団体事務室，貸事務室
3. 絹の即売，展示，斡旋，店舗設置
4. 会議室，食堂，貸室，旅館部
5. 其の他

2. 海外に於ける絹及生糸の需給調査販路拡張並宣伝に関する費用　5,000万円（32年度）

内　訳

1. 在外公館商務官による調査資料蒐集に関する費用　500万円
2. 海外貿易振興会による調査資料蒐集に関する費用　200万円
3. 輸出商及各業者との連絡，調査資料蒐集に関する費用　300万円
4. 海外各地の流行及その傾向調査に関する費用　1,000万円
5. 絹輸出先各国の状況調査親善使節派遣等に関する費用　2,000万円
6. 絹の宣伝と積極的売込等に関する費用　500万円
7. 各国の絹に関する熱意調査等に関する費用　500万円

3. 内地に於ける蚕糸絹業の計画生産及びその調制等に関する費用　1,000万円

内　訳

1. 桑苗，蚕種，繭，生糸の計画生産及調制等に関する費用　100万円
2. 桑苗，蚕種は内外の需要を見て計画生産の要がある関係費用　200万円
3. 繭は農村経営に必要な数量を確保する要がある関係費用　100万円
4. 生糸の製造設備は繭生産数量と均衡を保ち原料と設備の不均衡を解消する要がある関係費用　500万円

此の設備整理資金の調達は残存業者負担と政府助成金による

5. 蚕糸絹業の改良発達と生産費低減を図り，アジア各国の生糸を輸入加工して世界に輸出し得る様に繁栄を計る必要がある関係費用　100万円

4. 蚕糸絹業の改良発達及其の研究調査に関する費用

1. 日本の絹を世界各地の流行に適合させる調査研究等の費用　1,000万円
2. 日本に於て世界の流行を創造する為めの調査研究等の費用　1,000万円
3. 世界各地の流行サンプルを蒐集調査研究する等の費用　2,000万円
4. 絹の織，柄，染色，仕上，センス等の調査研究に関する費用　1,000万円
5. 絹に関する特殊技術者の育成訓練等に関する費用　1,000万円
6. 試験研究機関及び学校を開放して当業者の事業に直結利用させる費用　1,000万円
7. 優秀技術の表彰及公開等に関する費用　500万円
8. 技術者及経営者の教育訓練，連絡，協議等に関する費用　500万円
9. 中小企業の合同，連合，協会直営等の経営改善等に関する費用　2,000万円

4. 協会の基金　1億円

内　訳　（出資）

1. 製糸業者　5,000万円
2. 絹業者　3,000万円
3. 養蚕業者　1,000万円
4. 其の他　1,000万円

5. 経　費　臨時費　15億円

内　訳

1. 日本シルク・センター設置費　12億円

土　地　1億5,000万円

建築費　7億円

設備費　3億5,000万円

2. 製糸設備整理補償金　3億円

経常費　2億円

内 訳

1. 事務及会議費 4,000万円
2. 事 業 費 1億6,000万円
   1. 絹，生糸需給調査，販路拡張宣伝費 5,000万円
   2. 蚕糸絹業計画生産，調制費 1,000万円
   3. 絹業の改良発達研究調査費 10,000万円

6. **昭和32年度政府支出** 助 成 11億円
   1. シルク・センター設置費 90,000万円
      土 地 15,000万円
      建 設 75,000万円
   2. 事務及会議費 4,000万円
   3. 販路拡張宣伝費 5,000万円
   4. 計画生産，調制費 1,000万円
   3. 改良発達研究調査費 10.000万円
7. **昭和31年度政府支出**
   1. 日本蚕糸絹業協会創立準備費 3,000万円
8. **会員，組織員**
   1. 中央蚕糸協会及其の会員
   2. 絹工業協会及其の会員
   3. 有志の法人並個人
9. **總 裁**（会長）
10. **協会事務組織**
    1. 總 務 部 企 画
    2. 経 理 部
    3. 生 産 部 計 画と調 制
    4. 販売宣伝部
    5. 研究調査部
    6. 教 育 部

以上（1957，1．8）

山崎 寿氏（蚕14）農学博士に

長野県蚕業試験場松本支場長 山崎 寿氏は，かねてから学位論文として主論文「鱗翅目昆虫の胃腔膜に関する研究」及び参考論文「天蚕及び柞蚕の実用化に関する基礎的研究」15篇とを九州大学に提出されていたが，昭和32年 2月13日に目出度く農学博士の学位を授与さるれことになつた。

同氏が胃腔膜を研究するに至つた動機は天蚕及び柞蚕の絶食の試験中，たまたま絶食蚕が排出した珠数状の糞が実験台上にこぼれていた水中に落下し，それが軟化するに及んでピンセットで振つて見たところ個々の糞が寒天状物質で連絡しているという事実に逢着した。そしてこの寒天状物質が胃腔膜であることに思い当り，俄然これに興味をもたれ以来数年間に亘つてこの膜に関する研究を続け遂次その性状を明らかにすると共に蚕の生理学上及び病理学上極めて重要な役割を演じていることを実証するに至つたものである。

次に主論文の内容中主なものを拾つて紹介してみよう。

(1) 胃腔膜の固定方法を創案したこと。
(2) 形態を明らかにしたこと。
(3) 化学的成分としてウロン酸の発見から多糖の存在を実証したこと。
(4) 膜中に酵素の存在を確認し，消化に参与する可能性を示唆したこと。
(5) 膜の透過性を綿密に調査し選択透過性のあることその透過性が環境その他生理的条件の相違などによつて変化しない相当に安定した性質であること。
(6) 膜が絶えず新生され，また絶えず排出されること，その生成が中腸の全域で行われ特定部位から分泌されるものでないこと，その排出が絶食，呼吸障害，高低温接触，毒物給与などによつて増加することを確認したこと。
(7) 脱皮に際して新旧胃腔膜が完全に更新すること。
(8) 空頭性軟化病の空頭部位には胃腔膜を欠如していること，換言すれば胃腔膜のない部位が空くものであること。
(9) 熟蚕の赤糞の大部分が胃腔膜の断片であり，また熟蚕の尿の 1部が胃腔膜の溶解したものであること。
(10) ダニ病蚕の珠数状の糞は，糞と共に胃腔膜が多量に排出されることによつて生ずるものであること。
(11) 異物，毒物を食下した場合，あるいは体腔に注射された場合には異物，毒物は胃腔膜に集中し，やがてそれが膜と共に排出されるものであること。 などである。

現在まで胃腔膜についての報告は数多くあるが，それが断片的なものに過ぎず，これ程まで綿密にしかも組織的に研究されたものはなく，従つて蚕の生理学特に消化生理に重大な問題を投ずる結果ともなり，また病理学の上からも新らしい部面が開けて行くのではないかと考えられる。御本人は未だ不明の点が 2，3 あり，一生の仕事であると語つているが，この論文が教授会において極めて高く評価されたということを以つてしても内容が如何に充実したものであつたかがうかがわれる次第である。

氏は昭和 2年に養蚕科を卒業すると同時に母校蚕糸化学教室の井上柳梧博士の下に師事し，のち岐阜県高山蚕業試験場に赴任して現在の母校教授田口博士と共に独身時代の数年間をそこで過した。その間「桑及び蚕の銅成分に関する研究」「蚕兒蚕蛹の比重に関する研究」などの研究結果を次々に発表して田舎の試験場の存在を認識させた。その後昭和 8年長野県に転じて飯田，長野，上田と県下の各試験場を歴任し昭和21年松本支場長として着任して現在に至つている。

人ざわりがよくその上積極性に富み，着任当時実験設備の皆

（5頁下段へ続く）

蚕糸繊維化学最近の研究

大学第5回卒業式は3月10日（日）本校講堂において盛大に行われたが，これに先立ち3月1日卒業生の卒業論文発表会が各科教室において，教官学生多数出席のもとに行われた。以下その発表論文の標題である。

研究室名	研究学生	研究題目
養蚕学科		
小泉研究室	上原　昂	生産函数の農業面への適用について
松尾研究室	小木曽　章	桑芽枯病菌の分生子殖並びに子嚢殻の形成と光線との関係
	金子　俊彦	桑白紋羽病防除に関する基礎的実験
	神田　春茂	桑芽枯病の発生に及ぼす空気関係湿度の影響
	小出　華長	桑芽枯病菌の生育と培養液のP.H.炭素源及び窒素源について
田口研究室	片井　弘雄	桑樹コルク層形成の季節的変化と耐寒性（寒枯れ）との関係
	土屋　毅	枝条の生理的性状の季節的変化と耐寒性獲得との関係
	堀内　亨	日長条件と桑樹の生長との関係
関研究室	竹井　一健	桑樹細胞分裂の1日（24時）中における消長について
	町田　幹芳	桑樹雄花の生熟分裂にRadium並びにX－ray照射の及ぼす影響
八木研究室	蒲生　卓磨	数種夜蛾によるリンゴの被害と防除（予報）
	小林　啓次	モンシロチョウ鱗片内蛋白巨大分子に及ぼす食草の影響について
蒲生研究室	久保田　重良	家蚕の変態に伴う血液中の酵素作用について
	小林　陽	家蚕の生理機能に及ぼす放射性同位元素の影響に関する研究 —Ca^{45}, P^{32}及びRaの蚕兒血球に対する影響について—
	酒井　明良	家蚕の生理機能に及ぼす放射性同位元素の影響に関する研究 —Ca^{45}及びP^{32}の経口的摂取による蚕体諸組織への吸収状況について—
竹田研究室	佐藤　亮	家蚕の発育変態に伴う消化管中の遊離アミノ酸及び中腸型並びに体腔型多角体病蚕消化管中の遊離アミノ酸について
	塩沢　英人	家蚕の片側絹糸腺剔出及び吐糸孔閉鎖における血組織，体液及び脂肪細胞中のアミノ酸の消長
	茅野　弘	家蚕雌の血組織の代謝機能制限が卵細胞の発育及び産卵に及ぼす影響
	降旗　孝夫	家蚕の卵巣剔出に依る蛹及び成虫の脂肪組織，囲心細胞並びに体液中のアミノ酸の消長について

(6)頁へ続く

（4頁より続き）

無に等しかつた試験場で先ず設備の拡充に精力を傾注され，一通りの実験が出来る現状にまで到達させたのは全く氏の努力の結果である。また実験設備の拡充と併行して，その明晰な頭脳と情熱と忍耐力とを以つて絶えず研究を続けられ「研究の虫」とは氏のような人を指すのであつて，研究を第1の趣味と考えておられるようである。研究にあたつては特に現象をとらえる閃きの鋭いこと，洞察力の強いこと，また何か思いつけば昼夜を問わずその場で実験を開始する態度などは全く敬服に価する。現在までに公表された論文は80余篇に上つている。さらに常に摂生を重んじ極めて健康であることや各方面の先生方が氏に対して御指導と御援助とを惜しまれなかつたことなどが今回の栄誉を得られるに至つたものでありこれらは何れも日頃の氏の人柄のしからしむるところであると考えられる。

一方場内にあつては深い愛情と理解とをもつて後輩の指導にあたり，従つて部下の信頼が極めて厚く，また明朗な性格でスポーツを好み，野球，庭球，卓球など若者をしのぐ技倆の持主。囲碁，将棋も仲々腕前。時には Y談の仲間入りをしてリーダー格をつとめるという一面を持つている。

最近「桑及び蚕に対する微量要素としてのモリブデンの研究」に没頭し，これが現在相当なセンセイシヨンを蚕業界に起しつつあることは世人の既に知るところであり今後重大な発展が予想されるが，青年をしのぐ健康体と益々旺盛な研究意欲とによつて立派な業績を挙げられ蚕業に貢献されるものと確信する。

因に山崎伝博士（蚕17，農林省北陸農業試験場環境部長）は氏の令弟である。

終りに同窓生諸兄と共に今後における一層の活躍を祈る次第である。　（長野県蚕業試験場松本支場・西村国男記）

竹田研究室 吉川藤男 家蚕血組織の代謝機能御限が絹糸腺の発育及び繭質に及ぼす影響

山口研究室 鈴木昭 膿病及び中腸多角体の発現経過について

宮崎久雄 家蚕幼虫の中腸皮膜組織内貯蔵物質の消長とその組織学的研究

山辺好徳 冷蔵浸酸，における短期冷蔵について

長島研究室 齊藤幸雄 家蚕における瘤（K）の発現に関する研究——瘤（K）の分化と組織学的観察——

清水隆三 家蚕幼虫斑紋の発生遺伝学的研究

宮下民雄 家蚕の白卵及び褐卵における遺伝学的研究

古平研究室 栗林茂治 低温処理前後の食桑条件と蚕兒消化液の殺菌力及び多角体病発現率との関係

竹内一誠 農薬の蚕兒に及ぼす影響——特に薬害の持続期間について——

矢木研究室 宮下用治 石灰過剰施用による桑葉中のマンガン含量について

製糸学科

小泉研究室 小林益夫 座繰製糸の今後のあり方について

小塚陽一 水引問題と繭取引

宮坂研究室 宮坂武雄 製造工業における賃金構造

若林敬二 最近の県下製絲業における生産費分析と繰業に関する研究

内田研究室 伊藤俊文 おりものの緩回復の測定について

柳沢研究室 岡本克巳, 室岡和夫 各種繊維の粘弾性に関する一考察

白井研究室 押鐘平八郎 繭積層の圧密性について

中沢昭治 繭層圧縮の回復能と繭質について

原田胖 繭積層の圧密作用と繭質との関係について

林研究室 青木久夫 粒付変化による糸条斑変化程度

金井清人 繭の浮沈の程度と解舒抵抗

曽我晏三 赤外線照射によるセリシン粘性の変化

宮下敏雄 繰糸諸条件と解舒抵抗並びに生糸繊度との関係（低温繰糸）

石川研究室 石井一郎 生糸の疲労現象に関する2.3の考察

金光昭明 生糸及び絹糸の荷重—伸長曲線の相違についての一考察

高木研究室 窪田聖美, 小松昭成 繭層の湿熱処理とセリシンの溶解性

小井土基博 塩類のアニオン活性剤（製糸剤）に及ぼす影響

小松恒彌 繊維（生糸）の摩擦係数に及ぼす仕上剤の影響の測定方法

中沢一 繭層の湿熱処理によるセリシン粘溶液粘度の変化について

荻原研究室 荒井敬 絹繊維の微細構造と含水率

池田芳一 繊維の微細構造と膨潤性

中村富隆 繭の解舒偏差に関する研究

野沢潤子 被服材料の保温性に関する研究

紡織学科

呉研究室 篠原大, 滝沢啓造 ゴムの伸長結晶過程に於ける弾性の測定について

碓井実 G.M.計数管によるX線小角散乱装置の試作について

井田敬三 繊維及び膜の振動による弾性測定の一方法

木内寛 組紡糸のドラフト過程に於ける実験的考察

鈴木研究室 倉科和夫, 池内才八郎 ポリ四弗化エチレンの摩耗に関する基礎実験

一志研究室 和田実, 池田義信 組紡機の調整について

中村富男, 清水一寛 組紡機の糸切停止装置の試作

三浦研究室 中島孝夫, 正村銑三, 常盤真三郎 綾織物の密度がその性質に及ぼす影響

野口研究室 金井金男, 小林梅雄 単繊維強伸度の紡績性に及ぼす影響

大月昭男, 玉井和水 酸酵精練の除油方法について

古里研究室 宮坂啓象, 佐藤光義 撚数の変化による絹糸の性能の変化の考察

小林研究室 高島忠, 村山自出男 肝腫に犯された綿羊の毛質に関する研究

三浦研究室 武井武文, 市川義規 毛織機の動力に関する考察

鈴木研究室	古川 元彦	引張り試験の際の「つかみ」の運動（絹の場合について）
古里研究室	下平 弘之 風間 長生	織物の厚さ測定並びに折曲弾性率及び圧縮弾性率について

繊維化学科

大平研究室	青柳 正人	人造含窒素繊維の研究
隅田研究室	笠原 昭重	界面活性剤の帯電防止性と分子構造について
坂口研究室	久保 正人	絹糸フイブロインに対する過熱水の作用について
北条研究室	菅原 力	羊毛の金属結合量について
隅田研究室	玉井 潤 花岡 靖	酢酸繊維素アセトン溶液曳糸性について
北条研究室	滝沢 孝正	選択性イオン交換樹脂の合成
遠藤研究室	東城 篤義	アセテート用染料の研究
黒岩研究室	内藤 茂美	界面活性剤のミセル形態とその物理化学的性質との関係(8) 不飽和アルコールを溶解化したエステル型非イオン性界面活性剤水溶液の流動性
大平研究室	西沢 正純	繊維素繊維に対する β-プロピオラクトンの結合とその影響について
会田研究室	橋詰 厚夫	樹脂加工の染色々調に及ぼす影響について
北条研究室	林 貞男	キレート樹脂の合成とその物理化学的考察
黒岩研究室	林部 良彦	界面活性剤のミセル形態とその物理化学的性質との関係(6) 非イオン性界面活性剤水溶液の非ニュートン性流動と不飽和鎖との関係並びに中性塩添加の影響
会田研究室	半田 伊助	絹の金属塩処理とX線的考察及びその染色について
遠藤研究室	馬場 進吉	直接金属錯塩染料の研究
黒岩研究室	翠川 健彦	界面活性剤のミセル形態とその物理化学的性質との関係(7) 不飽和アルコールを溶解したエーテル型非イオン性界面活性剤水溶液の流動性
大平研究室	村田 鈴子	蚕蛹油の硝酸々化による2塩基性酸の合成及びペーパークロマトグラフイーによる分析，その利用について
黒岩研究室	森 雅広	高分子皮膜の選択湿潤に関する研究(3) アルキルベンゼンスルフオン酸ソーダ水溶液と油に対する選択，湿潤，特にビルグーの影響について
遠藤研究室	矢ケ崎千代子	ビニロン用染料の研究
大平研究室	山浦 源太郎	絹フイブロインの酸加水分解によるアミノ酸分布について
北条研究室	山上 洋介	絹及びビニロンのキレート結合に関する考察
遠藤研究室	柳沢 梯三	含クロアムゾ染料の合成
会田研究室	四茂野 裕	Superfine 染料の ビニロンに対する応用について
	横沢 寡	ビニロンの染色に関する一考察
坂口研究室	石堂 直紀	絹の Dinitro-chlorobenzen による処理の影響について
隅田研究室	小林 要吉	絹の樹脂加工（絹の膨潤による）結晶配列の乱れについて
伊藤研究室	後藤 熱	絹の微細構造の研究
大平研究室	上山 厚	葉緑素の抽出及び精製法について

昆虫の休眠

前号で書評のあつた**節足動物の休眠生理**は上記のごとく改題，その前篇（原著1～80頁，図版18）がいよいよ発行の運びとなりました。出版部で依託販売いたしますのでお早くお申込下さい。

内　容

1. **休眠と不活動状態の定義**・休眠の時期・胚子休眠の時期
2. **休眠の生起と環境**・光週律と休眠・波長と休眠・光感受場所・温度と休眠・光と温度に感受性の高い時期・食物と休眠・年令，父母の条件と休眠
3. **眠性の遺伝**・1化性種に対する環境の影響・カイコの眠性遺伝・系統と休眠・環境感受性の淘汰
4. **環境と休眠の終止**・休眠温度範囲，適温・休眠期間・低温感受の時期・温度の複合作用・光週律その他・化学的作用その他による休眠打破
5. **休眠と水分**・直翅目に休眠と水分・幼虫，成虫の休眠と水分欠乏・一部水分欠乏・全水分欠乏

前篇，A5，頒価¥130（送料¥20）同好者限定出版

上田市常入信大内　千曲会出版部

ちくまサロン

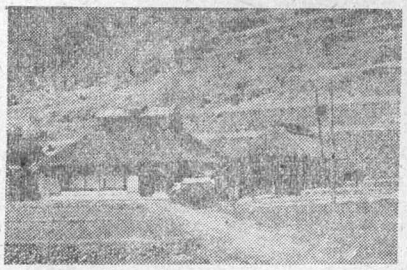
伊豆めぐり

山口定次郎

伊豆長岡温泉で静岡支会があるから行つてくるようにとの理事長からの命により 2月16日未明に上田をたつて午后 2時半沼津におりた。大阪からかけつけられた橋本（武）さんと降旗（孝）兄の両副会長に迎えられ，駅内で小休ののちバスで長岡に向つた。湯本旅館では常任幹事の安倍勇吉兄が設営の一切をやつておられた。続いて会長の戸倉八峯さん(蚕 2)が見え，青木幹夫，滝口昇の諸兄その他も来られ昔久しぶりの顔ぶれであつた。その夜から翌日にかけて 千曲会が 開かれた。懇親会は談論風発，怪気焔あがり，校歌に涙ぐむなど，楽しい一夜を語り全員一泊，翌日は正午まで歓談をつくして別れをつげた。会の様子については会長自から怪筆をふるつて別頁の記事を直ちに寄せられた。手紙では悪口が少すぎるが……と断つておられる。私は紙上で当支会長はじめ御世話になつた各位の御懇情に対し厚く感謝を申上げる。

17日はよく晴れた日だつたので数人の諸兄に案内され，近くの三津（ミト）の海岸に出，水族館を見，船でこゝをたち淡島を右方に富士を真北にながめながら沼津に引返した。夜は片倉蚕種製造所のお世話になつたが，降旗所長の命で翌18日は全所内第一統の人々に 1時間許り養蚕講話を仰せつかつた。あとで○○課長さんのいわく「お話の効果が 100%実現すれば 1分間6000円の価値がある」などときかされて即席の講話だけに冷汗をかいた。

そのあとで「あなたは蚕種の先生だから伊豆地帯の分場を見せてやる」といわれ，お言葉にあまえて，全所宮沢（津）兄の案内をうけ，急 行バスに身を托し，伊豆従断下田行ということになつた。視察と観光と史蹟巡りをかねた下田行は，かねての私の宿願でもあつたので，大変うれしかつた。バスは三島，修善寺と伊豆の山々の間をぬつて湯ケ島，天城山に近づく。海抜 900米の天城峠は正に天下の険であるがバスの旅はそれがスリルで楽しみとなる。峠はさすがに冷えており粉雪がガラスを曇らせていた。この辺で宮沢兄の持つてきてくれたマホービンの熱い紅茶をのんだが，何ともいえずおいしく，奥さんの心ずくしが感謝された。又車中では会社でも 6年余も伊豆地帯の分場を指導して来た経験のある宮沢兄の詳細な説明により非常に得る所が多かつた。峠を下つて左に右に無数の温泉郷を眺め，海が近くなつた頃には空も青く晴れて来た。やがて左方に女人の寝姿にも似た武山を，右手にポツンと下田富士が見える頃，バスが除行し「こゝが唐人お吉の最後をとげたお吉が淵です」ときかされて，にわかに 感傷的に なつたりした。もう下田の町である。時刻の都合で下田でバスをのり換え，すぐに西方海岸の石廊崎に向つた。45分間。この途中にも原蚕分場が多くみられた。農民は一般に豊かでなく海岸に住みながら炭焼渡世も多いという。結婚の時など未だ奇習が残つているとか，随分と文化にのりおくれた人々だなと考えさせられた。やがて石廊崎(いろうざき)についた。こゝは伊豆半島の最南端で，下田にきたらこゝを見ないわけにはいかないという景勝の地である。風波に侵されて入江が深く入りこみ水も美しい。長い岬の尖端には燈台があり，その下に石廊権現が祠られている。無気味なほどの紺べきの黒潮や，岩に砕けた白波が目にしみる。東方には役の行者が飛行のみのをかけたという「みのかけいわ」が7つの小島として奇形を呈している。よく晴れていたので遠く神子元島（みこもとじま）の燈台や，伊豆7島が，少しかすんで眺められ，しばらくは立ち去りがたかつたが，愛する我がカメラに 所々を記録して 下田へ引返した。いたるところ，新婚旅行の若い人々の多いのにはいささかあてられた。



伊豆下田地方の分場蚕室

下田では了泉寺を見た。この寺は1854年米国ペリー提督と日本幕府が下田条約を締結した所として名高い。従つて唐人お吉にゆかりの寺で，彼女の「かご」や「下駄」が 寺の中に大事に 飾られている。お吉様も境内にある。またこゝはエロ寺として天下に有名であるが，こゝの坊さんが観光にことよせて，宝物館を作り，お吉一代絵巻を額に入れかゝげて見せているが，その一部の宝に所謂天下の珍品を集めて観覧に供している。どえらい営利事業というのに驚かされるが，お国の為にといわれて花の生涯を唐人のためにぎせいにしたお吉と結びつけるのはいささか可愛想であり，また切角の詩情が大いにそがれるのではないかと思つたハリスとお吉のロマンスで名高く又お吉の墓のあるという宝福寺はみなかつたがハリスの領事館は柿崎の玉泉寺にあり，バスでその近くを通つた。時間の都合で町の南にある城山公園に上り下田港を一望することにした。公園に入つてまず目に入るものは，写真の大先輩下岡蓮杖の碑である。続いて大きく目を引くものは何といつても，開国百年記念碑である。こゝは港の中でペリーの上陸した地点の真上にあたるという。ハリスとペリーの像が刻まれ，印象的な英文と和文が刻まれている。1954年吉田首相の時建設されたばかりで新しいが，何か胸をうたれるものがある。しばらくこの前に立つて，思いを幕末開港の頃にはせて見たが，一度原子力時代の今日の日本や世界の姿を思い併せると，わづか 100年の間の世の移りかわりのはげしさに，うたゝ今昔の感にたえないものがある。更に東側の高台に立つて港をみると黒船をつないだという海の近くに犬走島があり左の方には吉田松蔭がひそかに外国船に乗るために待機していたという弁天島が見える。目の下には今は海上保安庁 の事務所があり，保安庁の船が停泊していたので東の坂路を降りた。たまたま，頭上に紅椿が咲き

乱れていたので，盛りをすぎてはいたが下田の旅の思いでにもと，小枝の花の4つ5つを手折つてかばんに入れた。

かごで行くのは
　お吉じやないか
下田港の春の雨
　泣けば椿の花が散る

やがて陽も西に傾いたので下田に別れをつげ5時半のバスで稲崎を経て東海岸をまつしぐらこ，夕暮から夜の道をひた走りにはしり，伊東についた。直ぐ海岸の温泉旅館に案内してもらつたが宮沢兄は沼津へ帰らねばならぬというのでこゝで別れることにした。この日のコースは12時間で凡そ200キロの強行軍だつたが，宮沢兄がつねに細かく行きとどいた心づかいをして下さつたので，之にあまえ，ほんとうに楽しく，一生の想出の旅になつたように思われる。この感謝の気持ちがめつたにペンをとつたことのない私をして，伊豆めぐりの記のかく気にさせたのだと思つている。（おわり）

和歌

松山仁一郎（糸34）

フラスコのエステル七彩に透き徹りゆがめる雲の影を映して
透き徹るエステルに白く沈みゆく過酸化ベンゾイル吸はるゝ如し
掌に固く附つ着きたるモノマーを会議の席にうつむきて剝ぐ
熱ほてり暖の出る身をいたわりてフラスコの重み掌に感ず
騒音の止みし夜更けの実験室に今日は聞きたりガス燃ゆる音
吾が理論強く主張し帰り来て机に染みしインキ見つめる
吾がこゝろとみに沈みて合掌せり白木新しき氷月妙貞大姉之墓
亡き義母を語りて炬燵に家族と昭和三十二年の春を迎えき
冬陽かげる山路を妻は位牌持ち吾は骨壺胸に歩ゆめり
愛しかりし義母の骸は痩せほほけ幼児おそれき愛しき義母を
浣腸に日毎用いしグリセリン瓶義母逝きて棚に埃かむれり
家族等が拾いて残れる義母の骨葬り火守る人は捨てたり
飼を求め啼く乳牛の声あわれ義母葬りし十二月二十六日

続　サ・エ・ラ

神林浩三（紡4）

—第12話—［外国語］

普通の会話中に英語とか仏語を交へる事は今では珍しくないが，それでも未だキザツポイとかハイカラ振つているとか陰口を叩く人もある。例へば感傷的をセンチ（Sentimental），円滑をスムース（Smooth），規則をルール（Rule）と云つた工合。処で少しでも学のある階層（Class）の人達には日本語でよりも英語か仏語で云つた方がピツタリその感じが出る場合が多いと思うがどんなものだろう。例へばBalance, Resistance, Slogan, Program, Theme（テーマ），Trouble, Appeal, Dag-out, Gang, Member, Mode, Nude, Mon'tage, Aperitif，の如し。併し之がTechnicsとなると最早断然原語でなければ困るし，それ程でなくても貿易通関上のClaim, Challenge, Cancel, Vise, Charter，と云つた用語もそのまゝでないと意味が通じにくい事になる。

作家で外国語を好んで使つたのは例の"プラリひようたん"の高田保でとても沢山の外国語を使つた彼の文章が読者に少しも不自然を感じさせないのは矢張り作者の人柄とその用法がうまいからかも知れない。（おわり）

保健に対する偶感

久保田昌人

何時ぞやのラジオの朝の訪問の時，東大名誉教授医博永井潜氏のお話を聞いて感銘深いものがあつた。同氏は82才であるが，かくしやくとして眼鏡をかけずに針のメドを通せるとのことで，其体力の若さは大したものと察せられる。同博士は60年間毎朝冷水浴を実行されておるとの事である。冷水浴の予備運動として頭の回転運動をされるとか。普通人の出事ないことであり，さすがは生理学の大家だけにちがうものだナアと敬服した。

横山大観，藤原銀次郎，久原房之助の3氏の放送も聞いたが，何れも80才以上の高令者とも思えぬ元気で壮者をしのぐ気概があり，雑誌などの寄稿文を読んで頭の下がる感がしてならない。

当上小亀方としても細田晦堂翁の如きは，85才だが，坐骨神経痛で私の処へ治療に見え，体にさわつて驚くことは，肉体の若さと骨格のよさである。骨格のよいのは若い時に剣道できたえた賜との事である。。

60才台の人と大差のないというてよい体格で，未だ10年位は大丈夫ですよとじよう談をいうておる。精神年令も実に若く，あの抱負誠見には教えらるゝ点が多い。書いてもシヤベつても同翁の右に出る老人は少いように思える。

俗にいう40手，50肩というておるが，これは老化をいゝあらわしたことゝ思うが，40才を過ぎてから，腰がいたまず，頭筋が張らず，肩のこらないような人ならば，健康体というてよいではあるまいか。

最近40台で高血圧になやみ，脳溢血で外界する人の多いのは，体質にもよるだろうが，保健に対する注意が足りなかつた為めではあるまいかと思えてならない。ころばぬ先の杖と保健に留意することが先決問題と思う。

ホルモン医学に就ては，未開拓の分野が多いようだが，カナダのモントリオー

ル大学教授セリエ医博の発表したストレス学説は，既に定評があつて，ホルモン分泌が順調なれば健康保持出来るように体験並に治療を通じて感じられる。

私は20数年前東京在住当時東京で盲腸炎を患い，屈指の外科医の 1時間半に亘る開腹手術をうけたが，マンマと失敗され虫様突起のゆ着はとれず，現在に至つておるが再発もしない。

其処で自分の健康を守る為め健康法を習い，指圧療法を身につけたのである。私は頗る健康で，恐らく同年の人達には絶対に負けない体力と若さとを持つておることをほこりとしておる。

私は毎朝15分間位冷水摩擦の後，シャツ 1枚で頭，腰の屈伸運動を10分間位しておることが健康の秘訣と思つておる。私は，肩や頭筋の はることなど絶対にない。なお新陳代謝，血液のじゆんかんなどのよいせいか，恐らく 3度の食事のまずいことがない。朝食など待ち遠しい位である。亡妻の母なども88才で死去したが，朝食は本当においしいといつていたことをおぼえている。

便通なども快適で，1，2度約 1分間以内である。便所内で新聞や雑誌を読まなければ，便通のない人や 3日に1 回の便通の人や，下剤をのまなければ，便通のない人のことを，聞くにつけても不思議でならない。

私は信念として服薬せずに体をよくすることをモツトーとしておる。恐らくここ数年来虫ぐすりの外，薬をのんだ例がない。私は元来喫烟はしないし，酒も相手のある時以外はのまないので，この点からも保健上よいのではあるまいか。

たまたま旧約聖書続篇の 1節に「その体格強く健かなる貧しき人は，その身体弱き富める人に勝る。健康と強き体格とは限りなき富に勝る。身体の健さに勝る富はなく，心の喜びに勝る歓びはなし」という個所を見，私の過去をかえりみてうなづけるのである。 (おわり)

会員の近況

静岡支会総会の記

支会長 戸倉八峰

復はがきを稼ぐ会員の再教育をとなえる

橋本，降旗両雄の肝入と，安倍常任幹事の選考で本年度総会を温泉郷，伊豆長岡温泉湯本館で 2月16日開催した。出欠照会の通知を出したが，過半数は「復はがき」を横領したのか，ウンともスーとも返信のないのは 5円を貯金する気かと申したくなるが，それはこちらのひが目か。学校での修身教育の不足からこんな

静岡支会

社会的欠陥となるのだと一同の所論となつたので強く再教育を要請する。

さて本部から理事山口先生が御来会あり，会するもの13名，寂漠の感なきに非ずだが却つて小じんまり，混然ととけ入り一層の親密感を増し大いに感興を味いえた次第であつた。只話題になつたのは遠州森の石松の後裔，佐藤悪太郎悪輩の風邪欠席であつた。常日頃千曲会会合の主唱者だけに定めて残念千万と病床でヤケドブロクでも あおつて居たこと だろう。

協議の一端

山口特派員の本部と母校の情報，諸会員の動静など詳細の報告あり。戸倉愚輩の迷論と別記のジエツト洗濯機の名論紹介，各会員の自己紹介などを終つて宴会に移つたが驚くなかれ84本のお銚子煙突をならべ（翌朝の小原庄助酒も含む）十二分の懇と親をかさね，深更に及んだ。

漸新なジエツト洗濯機

戸倉代理店長の説明のあつた，わずか10秒で完全に洗濯のできる「ジエツト機」は全員の驚異のまととなり，あれほどツムジ曲りの橋本武光所長の如きでさえ絶賛の辞を忘れずたち所に，懐中から代価を出して 注文をした。同氏は 近い中に100から200台を申込むと意気ごんでいた一事でも判るように，大衆的洗濯機として唯一無二，電気のいらぬこと，圧力利用の物理学的根拠で日本と英国の専売特許をえている利器として推賞された。正価ただの2000円，詳細は代理店(戸)商店（静岡市袋井町 戸倉方）へ照会ありたし。特約店権も御相談に応じます。

ストリツプ見物行状記

驚いたことには，宴後13名の会員中戸倉哲人 1人をおいてけぼりで全員．別室でのストリツプとやらの見学（？）に浮身をやし，中に○○ともあろう人種までがお先棒をかついで出かけ深夜の丑満時にコソコソ抜足さし足で吾人の枕元を踏みこえて寝床にもぐりこむなど，愚輩ごとき聖人からみると，御時世とはいえ，洵にもつてなげがわしき次第である。一同頬かむりして帰宅し，何の面目あつて貞淑なる良妻賢母にまみえたことであろうか。ただし愚輩があれを見損じたからといつてくやしまぎれにすつぱぬいたのではないことをことわつておく。合掌，合掌。

支部会員表彰の件

当支会総会決議の一項に少しく異色のあるのは，支会員表彰の件である。これは支会員の中，何か特異の行為などあつたもの（但し殺人強盗など過激な方面の特技は除く）で会員の認めた者は支会推薦で表彰する。本部は 1枚の表彰状を発行するようにされたい。賞品などは支会内寄付金であてる算段だから本部は彰状の印刷に取りかかつてもらいたい。

驚かぬ 31600円

興感をつくして翌17日正午解散。〆計31600円也の勘定は 各員の会費と大部分を橋本，隆旗両副会長の喜捨でまかなつて貰つたことを付記して感謝の意を表します。

参会者芳名…橋本，隆旗，滝口，青木安倍，江間，塚本，宮沢，坂口，田中，西村，戸倉，山口 合計13名

蚕糸34回同級会

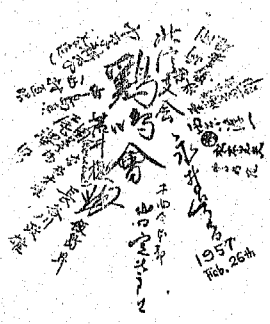
養蚕，製糸．第34回両科卒業生にて合同々級会を去る 1月 3日戸倉温泉高津屋にて開きました。極めて盛会でしたのでその時の寄書を御紹介致します。

馬場忠貞

北信支会「鶏鳴会」

山口定次郎

須坂市で須坂部会「鶏鳴会」を開きたいから出席せよとのお知らせを幹事長の長谷川政雄兄からいただいたので 2月26日夕刻 5時，臥竜山裏の「伊香保の湯」についた。



須坂は名にしおう北信第一の蚕糸郷で千曲会員も40名ほどが，各方面で活動しておられるので，諸兄の動静やお話しもききたかつたので喜んで出席した。地元の須坂市会議長の永井真吉兄，県議候補で有力な中島真兄，普連課長の小平耕平兄，他に上高井農高，高水社，農試園芸分場などの諸氏，そのほかに 北信支会長の 荒井猛兄（糸12）と西原兄が，長野から客員として参会され私を加えて16名の多数となつた。鶏鳴会長の長井兄の挨拶，幹事の事務報告，本部理事山口の母校および，千曲会の 報告があつてから 懇親会に入つた。何れの支会に出てみても必ず「初めまして，私は○○ですが」という挨拶が2，3組はみられるので，ここでも自己紹介は相当に意味があつたし，きいていてなかなか面白い。「自分は今，16ほどの会社に関係しているが……」という荒井兄の話しにはみな舌をまいていた。永井兄（蚕18）の名市会議長振りの片鱗もうかがいえたが，特に「鶏鳴会」のゆかりについての はなしは，珍らしいと 思つた。（後記），又須坂と上高井の蚕業は俺が一切をきりまわしているなどという人もありそれぞれ気合のかかつた人たちばかりで，実にたのもしきかぎりであつた。名残りもつきずぜひ泊つて行くようにとの御好意もあつたが之を無にして，私は明日の仕事の都合で上田に帰つたが車中同行の小平兄（蚕19）との蚕絲業の現況と将来についての談論もまことに愉快であつた。

最後に大変お世話になつた諸兄に深謝し「鶏鳴会」の発展を心から祈つてやまない。

付……「鶏鳴会」のゆかり

この会の名付親は針塚先生である。永井兄の希望により昭和7年元旦の書初めに勅題「暁の鶏声」にちなんで，ものせられ，この地方の同窓生を激励されたのである。書には

立脚正道　進当難局　挺身従事

和衷共同　忍以遂事

とかかれ，そのうしろの文章中に 勅題にちなみ，鶏鳴会の名が生れたことを記されていたように覚えている。これは軸物に作られているが上部に，永井兄の撮影にかかる，四ッ切大の先生の写真像がやき込まれてあり，一寸珍らしい軸物である。いづれ 本紙に まみえることと思う。　以上

訃報・久保氏逝く

昭和7年より実に25年間の長きにわたり，千曲会書記として絶大なる御尽力を頂きました，久保藤一氏は本年1月退職され，御自宅にて老後の余生を送られて居りましたが，去る3月3日2度目の脳溢血におれ静養中の処医薬の効空しく同月15日午前 5時遂に長逝，67年の生涯の幕を閉ぢて他界されました。まことに悲しみに堪えず謹しんで御報らせ致すと共に深く哀悼の意を表し，故人の御冥福を御祈り致します。

尚告別式は3月17日午後1時より御自宅に於て関係者多数御参席のもとにしめやかに取り行われました。

氏の永年の功績を讃え深甚なる謝意を表して記念品を贈呈しました。

御遺族　長野県小県郡長村横沢区3650久保浩美様（現在上田市東小学校勤務）

母　校　便　り

31年度卒業証書授与式挙行さる

去る3月10日午前10時より大学第5回卒業証書・第3回専攻科修了証書・第6回蚕糸別科修了証書授与式が挙行された。佐藤信大学長，伊藤学部長，文部大臣代理松原教育学部長，県知事代理橋詰農地経済部長，同窓会代表井沢蚕業試験場長を始め来賓父兄等多数臨席のもとに盛大に行われた。式後千曲会の歓迎会が開催され，思いがけなく千曲会から贈られた卒業証書の入物（紙筒）に，卒業生一同大満説で散会した。尚卒業並びに修了生は本科 109名（養蚕＝農学士，製糸，紡織，化学＝工学士）専攻科12名，蚕糸別科32名，選科 2名，合計 155名であるが その職就先等については来月号へ掲載される予定である。

32年度入学志願者の状況について

32年度の入学志願者については去る3月2日に締切られたが その状況は下記の通り，東京，名古屋，両試験場共昨年より約2割方上廻り，他府県人の志願者が多くなつて来た事を表わしている。

記

	第一志望	第二志望	合計	
養蚕学科	65	112	177	実人員 635名
製糸学科	74	191	265	
紡織学科	183	223	406	
繊維化学科	313	46	359	

（各科共定員は30名）

上田試験場	希望者実人員	298	（昨年367）
東京　〃	〃	184	（〃 151）
名古屋　〃	〃	153	（〃 123）
別科養蚕課程	41名	（定員 25名）	
〃 製糸課程	29名	（〃 15名）	
入学試験	3月23～25日	（別科は26日）	
合格者発表	4月1日（月）		
入学式	4月12日（金）		

以上　中島記

本会日誌

○2月16日（土）更埴千曲会総会，戸倉温泉高津屋旅館にて開催。本会より香山理事出席。

○2月17日（日）静岡千曲会総会，伊豆長岡温泉にて開催，本会より山口理事出席。

○2月26日（火）北信千曲会「鶏鳴会」須坂市臥竜公園「伊香保の湯」にて開催。本会より山口理事出席。

○3月16日（土）理事会（拡大役員会）開催。久保藤一氏に退職記念品を贈呈し，長年の功績を表彰した。

議　題

1. 会費納入率向上方法について。
2. 会報の広告料について。
3. その他

出　席　者

桜井吉利（上小）小山清（群馬）香山清和（上小）猪坂直一（上小）笠原義人（上小）町田博（本会）山口定次郎（本会）荻原清治（本会）竹田寛（本会）中島暹（本会）野口新太郎（本会）坂口育三（本会）八木政誠（本会）山崎嘗録（本会）須田圭二（本会）北條五郎エ門（上小）神林浩三（北信）齊藤義信（東京）大山融（佐久）北条舒正（本会）小林尚一（本会）倉沢美徳（本会）小山長雄（本会）美齊津利正（本会）別府茂（本会）

会費領収（3月10日現在）

昭和31年度会費納入者

金200円

松山仁一郎（糸34）
岡崎　勘助（蚕16）
滝沢和三郎（紡12）
宮前　邦雄（蚕12）
古平　義雄（〃22）
清水　良一（〃25）
中島　正已（〃28）
望月　政郎（〃31）
宮下　久吉（〃32）
田沢　四郎（〃33）
小林　顯（〃34）
篠原　定雄（〃34）
高橋　威（蚕35）
金沢昭三郎（〃）
石谷　雄一（〃38）
岩本　賢次（糸21）
小泉　辰雄（〃24）
佐藤　三治（〃32）
柳沢　義之（〃35）
土屋　拓大（蚕大1）
宮本　金三（化3）
小林小一郎（糸34）
吉村　三郎（〃32）
松村　季美（蚕1）
宮川千三郎（〃20）
竹田　好武（〃28）
堀内　彬明（〃33）
大井　秀夫（蚕36）
長谷川聖人（〃36）
山野井文夫（蚕専）
松村　真（〃）
佐藤　金六（糸5）
大木　定雄（〃19）
島崎　昭典（〃36）
水出　通男（〃37）
笠井　忠光（糸大2）
寺島　利一（〃3）
外山　善臣（化5）
上原純之亟（糸別2）
瓊田　英男（糸30）
相場実志男（〃19）
松本　一二（蚕16）
坂根宗太郎（紡21）
塩原富佐司（蚕大1）
根本　剛（糸大1）
滝沢　昌一（蚕26）
吉井　鼎（糸16）
柳沢　増治（蚕別1）
秋山　利夫（蚕24）

未納会費納入者

金1,300円

岡崎　勘助（蚕16）

800円

柳沢　増治（蚕別）

700円

滝沢　昌一（蚕26）

600円

松本　一二（蚕16）

300円

大槻　勝（化8）

200円

加藤喜一郎（蚕3）
大久保孝一（〃29）
上野　正美（〃31）
島田　仁治（〃36）
滝沢和三郎（紡12）
宮本　金三（化3）
瓊田　英男（糸30）
坂根宗太郎（紡21）
根本　剛（糸大1）
吉井　鼎（糸16）

昭和32年度会費金300円也納入者

松本　一二（蚕16）

昭和32．33年度分会費

金600円

柳沢　増治（蚕別1）

退官記念資金受領報告

（3月10現在）

佐藤利一先生分

金500円

島田猪一郎（蚕32）

佐藤春太郎先生分

金500円

島田猪一郎（蚕32）

窪田潤先生分

金500円

橋本　直司（蚕17）
吉井　鼎（糸16）

特別活動資金預収

（3月10日現在）

金600円

滝沢和三郎（紡12）
坂根宗太郎（〃21）

金300円

島田猪一郎（蚕32）

編集後記

○蛍の光窓の雪……光陰矢の如しとか，才月の流れは早いもの，去る3月10日大学第5回の卒業式が行われ新たに150余名の千曲会員を迎えました事は御同慶に堪えません。若き情熱と希望をもつて母校の学窓を後に浪漫き実社会へと巣立つて行ます。同窓先輩各位の深愛且つ懇切なる御指導と御鞭達とを願がつてやみません，神武以来の好景気の為でもないでしようが先輩各位の並々ならぬ御尽力と相俟つて新卒業生の就職状況は極めて好調で，この詳報は次号に掲載を予定して居ります。

○陽春3月とは名のみにて紫紺に染みたピロードの融感を思わせる鳥帽子岳の頂きには尚残雪白くスキーの思い出，菅平スロープには遅れ馳せのスキーヤーガ押しかけて居ります，遠く西空に浮ぶアルプスの銀嶺より吹き来る風は尚寒く，木々の芽は未だ固くとざされて居ります。

然し大自然の躍動はかた時も止ることなく，常田池の氷も何時しか溶けて，池畔の枯草の間より黒土を押し分けて早くも黄色い若草の芽が力強く頭を持ち上げて居ります。桜花の下にボートを漕ぐ日も近いことでしよう。みすずかる信濃路の一角常田ケ丘にも春の足音が聞えて参りました。

○東に浅間の噴煙を仰ぎ，藤村が旅情を詩つた千曲の清流をふかんする処上田の地に伝統に輝く母校の姿にしばし想いを馳せて下さい，年々才々発展の一途をたどるかげに千曲会の力の如何に大なるかを思わされます。

○卒業式，就職，入学試験，新学期の準備等々年度末この母校を御想像下さい。

○編集未熟にて御読みにくき点多々あると存じますが，努めて皆様の御希望に沿いたく念じて居りますので，御意見及記事の原稿等どしどし御寄せ下さい春と共に会員諸氏の御清健と御活躍を御祈り致します。（美齊津記）

編集理事　山口定平　編集総務　小山長雄　部員　石川博　中原武　西山久雄　清水周　柳沢幸雄　美齊津利正